

自分たちで守らねば

女性消防隊の重要性



鬼北町女性消防隊

部長 入山 祐子

消防団幹部の方に、女性消防隊の加入者を探して欲しいと頼まれ、沢山の人をお願いしてまわりましたが、育児や仕事が忙しいからと断られ続けました。いったい、何人の人に断られたでしょう？全く先の見えない中、一時は諦めかけましたが、ようやく「やってもよい」という方に出会い、2人で入団しました。

現在隊員は18人です。みなさん自主的に入団された方ばかりなので、明るく、とつてもパワフルです。「町民に喜んでもらえる女性消防隊」を目指し日々奮闘中です。よろしくお願いします。

女性消防隊は、消火活動を行うわけではありませんが、女性の持つ能力を生かし、住民への防火・防災指導や啓発活動を行い、火災や災害を未然に防ぐことを目的とした団体です。女性が正しい防火・防災知識を得たり、的確な初期消火技術・応急救護を身につけ、その知識や技術を多くの人に指導することによって、地域住民に防火・防災意識が芽生えることが望まれます。女性消防隊の設立は災害に強い町づくりに必要なのです。



自主防災

自主防災組織って？

災害が発生した場合に、災害による障害が発生し、防災関係機関が早急に対処出来ないことも考えられます。災害の拡大を防ぐには、自分や家族の力だけでは限界があり、危険を伴う場合があります。

そんな時に、隣近所の人達が集まって、お互いに協力しながら初動時の防災活動に組織的に取り組むことが大きな力となります。災害発生時はもちろん、日頃から地域の皆さんと一緒に防災活動に取り組むための組織を「自主防災組織」といいます。

ご近所の底力

阪神淡路大震災時に、淡路島北淡町（現在の淡路市北淡町）では、不幸にも39人の方が圧死しましたが、約300人の生き埋めになった方が救助されました。一方、阪神地区多くの住民が建物の下敷きになり、探知機や救助犬を使いましたが、多数の圧死者が出ました。この違いこそが「ご近所の底力」の差だと思われれます。

